

## 第4回（仮称）印西市歴史文化施設基本計画策定委員会 会議録

1. 日 時 令和5年8月8日（火）14:00～16:15
2. 場 所 印西市役所4階 41会議室
3. 出席委員 ◎高橋克委員、西山純子委員、三石宏委員、早川博史委員  
伊藤哲之委員、西田裕子委員、岸上誠委員、本田正幸委員  
（◎委員長）
4. 欠席委員 榎美香委員
5. 事務局 印西市教育委員会生涯学習課 飯島課長、菅谷係長、根本主任学芸員、  
大関学芸員
6. 傍聴人 1名
7. 会議内容 1 開会  
2 会議録署名委員の指名  
3 議事  
（1）（仮称）印西市歴史文化施設基本計画の検討の進め方  
（2）（仮称）印西市歴史文化施設の整備に向けた市民意識調査 調査報告  
（3）（仮称）印西市歴史文化施設基本計画 事業活動計画（案）の検討  
4 その他  
5 閉会

### 8. 会議録

#### 1 開会

#### 2 会議録署名委員の指名

委員長： 早川委員を指名する。

#### 3 議事

##### （1）（仮称）印西市歴史文化施設基本計画の検討の進め方

事務局： ※資料1について説明

委員： 来年3月までの策定期間中に建設地は決まるのか。

事務局： 建設地は施設整備計画において検討いただく予定である。現在、候補地を検討中である。

委員： 展示計画よりも施設整備計画を先に検討することは可能か。

事務局： 現在、施設の必要面積を精査している。必要な敷地面積が決まってから施設整備計画の検討に入る予定でいた。ご指摘のように、施設整備計画を先に検討することについて事務局で検討したい。

委員： 建設地により、展示テーマが異なるのではないかと。たとえば、木下貝層を紹介したいのであれば、木下貝層の近くに整備するなど考えられるため、場所の検討を先にするとよいのではないかと。

事務局： ご意見については事務局にて検討したい。

委員： 検討の進め方については柔軟に対応できると理解した。

(2) (仮称) 印西市歴史文化施設の整備に向けた市民意識調査 調査報告

- 事務局 : ※資料2について説明
- 委員 : 吉岡まちかど博物館を運営している立場から、同施設の認知度が低いという結果をうけて、もう少しPR等していきたいと思う。
- 委員 : 既存の博物館は気軽に立ち寄れるつくりになっていないようである。地元の方たちが気軽に立ち寄り、展示を見ないでも過ごせるなど、市民の憩いのスペースとしての機能が博物館に求められていることは、非常に新しい価値観だと思う。千葉ニュータウン中央駅にできるという交流施設と同じように、よりフランクな施設になるとよい。入館料を払わない施設利用者も入館者としてカウントできる。新施設を市の収入源にすべきという意見が出た場合、その意見に反することになるが、問題にすべきではない。この施設を訪れることで市民が印西市を愛してくれる、というものになるとよい。
- 委員 : 市民が印西市を「ふるさと」と感じる理由に注目した。「ふるさと」と歴史文化がダイレクトにつながるものではない、という結果になっている。この結果を受けた行政のお考えはあるか。
- 事務局 : 印西市を「ふるさと」だと感じる人の割合が少ないことに衝撃を受けている。市としては、市民がいま居住している地域の歴史文化に触れ、居住地域を知り、興味を高められるような施策を、引き続き進めていきたい。今回の調査では、居住期間の長さが直接「ふるさと」だと感じる理由と回答したのではなく、長い居住期間において、何か感じるものがあつたために「ふるさと」だと感じたという回答されたのだと考えている。
- 委員 : 本田委員のご意見は、今回のアンケート結果を本プロジェクトにだけでなく、全庁的な取り組みに活かしてはどうかというご意見だと思う。
- 委員 : 居住地域を「ふるさと」と感じるかどうかは愛着の問題だと思う。さまざまな要素があつて、地域への愛着は生じるものだ。私は印西で生まれ育つたわけではないが、愛着はある。観光施策では「第二のふるさと」というような視点の取り組みもあるが、これらは人々に地域への愛着を抱かせるための取り組みだと思う。生活していく上で様々な要素を総合して、印西市への愛着が育まれるものであり、歴史文化を知ることだけで愛着を持たれるわけではないと思う。
- 委員 : 「知らない」とか「関心が低い」というのは、今後知ってもらえるチャンスと捉えるべきである。伝え方や見せ方の工夫についていえば、ただ施設があるというだけではお客さんは来てくれない。どうすればお客さんが施設に足を運んでくれるかを考えることが課題だと思う。どの自治体も「ふるさと」という言葉を使いたがるが、「帰るべき場所がある」ではなく「自分たちのまち」だということを感じてもらえるような、ほかの表現を使えば、居住年数にかかわらず広く受け入れてもらえるのではないかと。  
歴史文化施設の場合、作る側は古代から江戸時代を対象にしがちだが、ニュータウンの成り立ちを全面的に打ち出してもよいと思う。たとえば浦安郷土博物館は近代化の展示も充実している。アンケートでは知りたいという回答の割合が低かった「古代のムラの暮らし」や「近代の印西の営み」に関する展示があつてもよいが、アンケート回答を反映した展示を検討しても良いと思う。歴史というと古いものを守るべきだと考えがちだが、現在の印西から遡っていく手法も良いと思う。現在が後に続く時代からみれば歴史だという意識を持ってもよいのではないかと。  
印西の魅力については、市民からだけでなく、企業等にヒアリングしたり、各企業のプレスリリースから拾ったりしてもよいのではないかと。
- 事務局 : 印西市は、昭和42年に始まった県の計画でニュータウンが整備され、合併等を経て3万人から10万にまでに発展した。さらに、交通網の発展、地盤の強さ、地価の安さなどの理由で、データセンターや物流施設などの企業進出も進んできた。このような近現代の開発や発展も印西市の歴史の一部であると考えられるので、そのあたりについても着目していきたい。
- 委員 : 「印西市の地質」と「近現代の発展」に対する関心が高い点が注目される。必ずしも古いものだけではなく、ニュータウンの整備や近年の発展の歴史も

新施設の個性になるのではないかと。松戸市立博物館では団地の一角を再現した展示があり、若い人々の撮影スポットとして人気になっているときく。近代の発展が現在の暮らしにダイレクトにつながっているという点で個性になると思う。印西市の魅力として住環境の良さが上がっているが、必ずしも印西市を「ふるさと」と感じなくても、居心地のよさが愛着につながると思う。新施設では居心地のよい施設となることで、印西市への愛着につながると思う。新施設に子どもへの学習支援が期待される一方で、施設機能として飲食施設や交流スペースのニーズが高い点は、今時のニーズだと思う。展示だけでは人を呼び込むのは難しく、カフェなどの無料で居心地のよいスペースが求められていると日頃から感じている。

事務局 : 印西市は住みよい街日本一に7年連続なっている。その大きな理由として、豊かな自然と都市機能が共存している点が上げられる。自然と住みよさの調和が印西市の特徴の一つだ。印西が利便性の高いまちであるのは、ニュータウン事業があったからだ。ニュータウンの整備過程の写真資料などもあるので、印西市の特色あるものを展示に活かしていきたい。人を呼び込むという点では、博物館機能だけでなく、複合的な施設が求められる。令和7年4月、千葉ニュータウン中央駅近くに複合施設が開館する。この施設は、行政機能に加え、文化ホールや市民活動機能、図書館機能のほか、子育て支援施設や健康増進施設などの総合的な施設として整備する予定である。新施設についても、さまざまな機能を持たせ、市民が利用しやすい施設を検討していきたい。

委員 : 印西ふるさと案内人協会に所属して、市民に印西を「ふるさと」としていただくことを念頭に活動している。アンケートの結果を見て、より積極的な活動の必要性を感じた。印旛飛行場に関心が高いことは、我々の活動からも感じられる。印西牧の時代から飛行場・開拓の時代、ニュータウン整備にまつわる箇所を巡り、開発の歴史を案内すると、皆さん興味をもってくれる。このような経験から、近現代の印西の開発は新施設において大事なところだと思う。また、印西の住みよさに貢献できる施設であってほしいと思う。

委員 : 令和7年に開館する施設にはない機能で、今後整備が求められる機能について、市の考えはあるか。

事務局 : 令和7年開館の施設は、市役所出張所、保健センター、市民ホール、市民ギャラリー、音楽スタジオといった機能を備える。しかし、美術品や文化財の展示機能はないので、新施設として今後必要であると考えている。

委員 : 印西市の伝統芸能との交流・発信ができる機能がほしい。遊びながら学ぶことができるような、スーパーマーケットのフリースペースとは一線を画したスペースが望ましい。月1回伝統芸能を発信する機会があると、スーパーのフリースペースとは違った存在価値が生まれるのではないかと。さまざまな年齢層に合わせたイベントを実施し、集客増を図ってはどうか。各事業についてはPDCAサイクルを進め、集客力に応じて内容を変更できるといった、柔軟な活動展開が可能な施設になるとよい。

事務局 : 委員の皆様のご意見からは、従来の博物館という施設というよりも、新たな発想で市民の交流拠点・情報拠点となるような施設を検討していくことが必要と実感した。また、いかに活用してもらえるかということも踏まえて施設整備計画を検討していきたいと思う。

委員 : 歴史と文化に対する興味というファクターはそんなに重要なのかという本田委員の意見が印象深かった。文化財をお預かりしている立場としては、常々そのようなことを感じている。若い子育て世代が古いお堂に訪れることはない。世代によってニーズが異なるということをアンケートは浮き彫りにしている。現在、子ども支援の機能やフリースペース、飲食機能を欲している世代の方たちが、60歳以上となった時に、歴史文化に関心を持つように変化するのに関心がある。そのような変化があったときに、彼らの興味関心に応えられるようなものを確保しておいていただきたい。佐倉の国立歴史民俗博物館はレプリカや映像を多用しており、展示方法として上手だと思う。常滑の大壺や岩戸の民俗資料館にある漁具などは、見に行ってもはじめは興味がわからないが、映像で印象的に紹介すると興味を持って見てもらえるのではないかと。現在の技術を活用するといった工夫をしながら、歴史や文化に触

れる機会を確保していくとよい。

- 事務局 : 今の時代にあった展示物の見せ方、プロジェクションマッピングや映像展示、3D化など、他事例を参考に検討していきたい。
- 委員 : 重要文化財を展示できる施設にしてほしい、という話を以前したが、そのためには、飲食施設などの火気を使用する施設を別棟にする必要が生じるので、そのあたりも踏まえて検討しておく必要がある。
- 委員 : 歴史文化施設は不要という意見が24件あったとあるが、具体的な理由があるのか。
- 事務局 : 細かな指摘はなく、不要であるという意見のみの回答であった。

### (3) (仮称) 印西市歴史文化施設基本計画 事業活動計画(案)の検討

- 事務局 : ※資料3について説明
- 委員 : P.17 収集保存の施設機能に記載の収蔵庫は、十分な規模を供えるべきである。P.18の調査研究については専用の書庫も必要ではないか。P.20の展示公開においては、展示の際に、展示ケースがなく苦労した私自身の経験から、予算取りの段階で展示ケースを供える計画をしておく必要があると考える。P.22の市民研究室とは具体的などのようなイメージか。
- 事務局 : 収蔵庫については施設整備計画のなかで具体的に必要な規模お示し、皆様のご意見をいただく予定となっている。書庫についても現状を踏まえた必要規模をお示しする予定である、展示ケースは記載されていないが、計画の中で想定していきたい。市民研究室は、市民が自発的に行う研究活動を学芸員等がサポートするといった活動ができる施設をイメージしている。市民が自由に研究できる環境を整えたいと考えている。
- 委員 : 希望者が多いと取り合いになるのではないか。そのあたりも想定して検討していただきたい。
- 委員 : ミュージアム・コミュニケーターとあるが、どのような役割なのか。学芸員と職務が重なることはないのか。P.14のであい・交流の項に記載の主なサービスでは交流促進になるのか疑わしい。具体的なサービス内容をたくさん挙げるべきである。交流のためには設備だけでなく、職員が対面で行うマッチングなど、交流のための仕掛けや印西独自の重点事業なども盛り込んでおくべきである。単に人が集まるだけでは交流は進まない。
- 事務局 : 展示解説員は聞かれたら説明するのが一般的だと思うが、ミュージアム・コミュニケーターは答えを提供するのではなく、利用者の主体的な考えを大事にし、それをサポートする役割をイメージしている。役割としては展示解説員に相当するかもしれないが、解説のしかたが異なるのでミュージアム・コミュニケーターと表現している。
- 事務局 : であい・交流の活動の充実については、事務局で検討させていただく。
- 委員 : p.15 であい・交流について、里山のくらし体験としては房総の村を想像した。近隣施設と重複した施設にならないよう、独自性を持ってほしい。P.22 地域活動への支援について、ミュージアムグッズの開発などあるか、実際にペイできるかという点難しい。煎餅の焼き体験ができるなど、印西ならではの事業を組み入れてほしい。印西には道の駅がない。道の駅をつくる計画があるのであれば、新施設での展開も検討してほしい。
- 事務局 : 里山のくらし体験については、印西独自の特色ある施設整備やリピートにつながる視点をふまえて検討していきたい。地場産品の支援については、さまざまな地域の方々や企業、教育・研究機関等と連携し、地域の活性化につながるような視点で検討していきたい。道の駅については、他の市の公共施設整備計画や都市計画などと整合を図りながら検討を進めていきたい。
- 委員 : であい・交流については、アンケートの結果をふまえて具体的な取り組みを検討するとよい。新しい施設にいくと、良い機材があると特定の人が独占してしまい、ほかの人が使えないといったこともあるので、そのあたりも踏まえて検討するとよい。収集・保存については、先日視察した新施設では、すで

に収蔵庫がいっぱいであるときいた。今まで分散していた資料を一か所に集めるのが理想だが、収蔵方法については、ある程度取捨選択しながら、優先順位を検討するとよい。調査研究については、印西市の特性を活かしてくれるような学芸員を確保し、彼らが活躍できる環境になると良い。展示公開は、常設展示を一部バラして企画展示を開催しているという施設がある。ある程度フレキシブルに空間を変えることは重要であるが、展示を設営する職員の負担にもなりかねない。常設展とは別に企画展示を供えることに加え、研究機能など諸機能について、最大を想定しつつフレキシブルな活用を検討するとよい。学習・創造支援については、地域の保存団体とともに活動する機会を設けてほしい。学校教育との連携は、教員の負担が多い現状をふまえると、ある程度パッケージ化した教材を用意して学校現場に提供し、カスタマイズしながら展開するとよい。

- 事務局 : いただいたご意見を踏まえて検討していきたい。
- 委員 : 事業活動計画に上がっているすべての事業を実現するためにはどれだけのスタッフが必要になるのか懸念する。ボランティアや市民研究員がいても、組織外の人との連携にはそれらを束ねる人材が必要となるので、絵に描いた餅にならないよう人員配置を並行して検討してほしい。100人規模のスタッフが必要になることも想定される。
- 事務局 : 施設計画や人員配置を並行して検討していく。
- 委員 : 歴史文化の研究活動をしている市民は多いと思う。新施設ができれば、市民がさまざまなサポートを受けながら調査研究を進められるようになることを期待している。郷土史研究において印西でもかなり研究レベルの高い人材がいる。彼らに「印西市郷土文化研究員」といった公式の肩書きを与えて、研究成果を新施設に提供してもらおうというような（活動は無償、講演は有償とするなど）事業を検討してほしい。P.22 地域活動への支援に無形文化財の継承支援とあるが、非常に難しいことだと思う。獅子舞体験講座を開き、興味のある人にはより専門的な講座の受講やスタッフ参加の機会を設けるなど、一連の講座提供を通して継承支援するとよい。無形文化財は、当地の人以外も参加しやすい工夫をしてほしい。P.24 ネットワークに記載の地域資源のひとつに個人のコレクションや企業のショールームなどの小さな博物館がある。それらを資料館として一般公開してもらい、新施設でネットワークを構築し、印西のすべての資料を新施設が担うのではなく、それらの施設や個人と連携すればよいのではないか。市内の企業や学校団体、個人などのコレクションを公開できる施設をつくり、印西の文化として発信してはどうか。
- 事務局 : 貴重なご意見に感謝する。
- 委員 : 指定文化財については文化財審議会ですべての予算をつけているので、新施設では対応する必要はない。現在の取り組みと精査してもらい、そのまとめ役を新施設が担うとよいのではないかと。
- 委員 : 歴史資料センターで古文書講座や古文書の解説ボランティアなどに参加したことがある。そのような形で、市民の歴史文化に対する興味関心を育てる取り組みを展開してほしい。長期的なスパンで、印西の歴史文化に貢献できる市民を育成していただけるとありがたい。
- 事務局長 : 博物館の役割のひとつに「生涯学習の推進」があり、地域の方々の人材育成や活用に関しては今後も検討していきたい。
- 委員長 : 里山のくらし体験をするためには、新施設を山のなかにつくらなくてはならないが、市長は認めないと思う。市民アンケートでもアクセスの良い場所へのニーズが高い。新施設は建設するとして、里山のくらし体験については、フィールドミュージアムとしてフィールドを指定して、調査研究や里山保全活動を展開するとよいのではないかと。野田市にはコウノトリの保全活動の事例がある。
- 事務局 : 印西市でも武西里山で、生物多様性をテーマに草刈りやモニタリング調査などを行っている。フィールドミュージアムに関しては、環境保全課と情報共有したい。

- 委員 : 市原歴史博物館では、市内 20 箇所に拠点を立て、一部の拠点に新博物館開館前から養成してきたボランティアが常駐し、案内している。博物館を拠点と位置づけ、市内全域を博物館としてすると、歴史文化資産が博物館から離れていても事業を展開している。現在 10 箇所程度にしかボランティアが常駐していないが、近年中にすべての拠点にボランティアが常駐する予定である。ボランティアの養成は開館前に何年かけて行われていた。
- 委員 : 市原歴史博物館は開館に向けてボランティアの養成を行っていた。市原はチバニアンがある場所なので、市としても力を入れている。隈研吾氏設計のビクターセンターを整備予定である。

#### 4 その他

- 委員 : 次回の委員会は展示計画の検討が予定されているが、立地が決まらなると展示構成や展示配置図の検討は進まない可能性がある。整備場所によって展示の目玉が異なることはないか。
- 事務局 : 現時点で想定している施設は印西市全体の歴史を紹介することを主としている。そのため、場所に大きく依存する展示内容ではないと思う。たとえば、新施設が木下貝層の近くに建設されなくても、木下貝層の紹介はあるはずである。
- 委員 : 土浦の上高津貝塚のように、展示の目玉がそばにあるところに施設ができないのかが気になる。木下貝層のそばの木下交流の杜には現状では建てられないと伺った。
- 事務局 : そのあたりについては精査しているところである。現在のところは、基本計画検討のスケジュール通りに検討を進める予定でいる。
- 事務局 : 次回開催日程は 9 月下旬を予定している。詳細については改めて調整させていただく。

#### 【会議資料】

- ・資料 1 -1 基本理念の検討
- ・資料 1 -2 (仮称) 印西市歴史文化施設基本計画 中間報告 (案)
- ・資料 2 歴史文化施設の整備に向けた市民意識調査 実施計画 (案)

令和 5 年度第 4 回 (仮称) 印西市歴史文化施設基本計画策定委員会会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和 5 年 9 月 28 日

(仮称) 印西市歴史文化施設基本計画策定委員会

会議録署名委員 早川 博史